

第6学年 音楽科学習指導路案

教科等	音楽科	題材名	歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫しよう	本時	全3時間扱いの2時間目
学級	6年5組	授業者		教室等	4階 第一音楽室

<本時の指導>

<本時のねらい>

曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて、思いや意図をもつことができる。

	<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p>	<p>○研究主題にせまる6つの手立て □…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p>
導入	<p>1. 常時活動を行う。 T: 周りの声を聴きながら、無理のない声で歌いましょう。</p>	<p>□自分のパートの音を正確に歌えるようになったら、周りの声を聴き、ハーモニーをつくる意識で発声ができるようにする。姿勢や口の開け方、目線等についても助言する。</p>
展開	<p>2. 前時を振り返り、主旋律を最後まで歌う。 T: 難しい音程のところや、たくさん息を吸わなければいけなかったところに気を付けながら歌いましょう。 3. CDを聴いて、ヒントカードや拡大楽譜を見ながらAからDの表現の工夫を考え、楽譜に書き込む。【発見】 T: ヒントカードや拡大楽譜に書かれていることに着目して、聴きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>曲想を生かし、自分たちの思いや意図をもって、表現を工夫しよう。</p> </div> <p>4. 周りの友達と考えを共有する。【対話】 T: 表現の工夫について考えたことを共有しましょう。友達の意見が自分に合えば、それを楽譜に記入してもよいです。</p> <p>5. 児童の意見から出てきたことを順に全員で歌って試す。【決定】【表現】 T: 話し合っただけの意見を発表してください。その意見を、実際に歌って、試してみましょう。 C: Aの部分は強弱が一番弱いので、音量は小さく、発音は丁寧に歌いたいです。 C: Bの部分からソプラノとアルトが分かれているから、今はアルトの音を意識しながら、ソプラノを歌えたらいいと思います。 C: Cは、強弱が強いのに、さらにクレッシェンドまでついているので、盛り上がりを意識したいです。 C: Dが曲の山だと思うので、のぼす音が途中で切れないように、息をたくさん吸って歌いたいです。</p>	<p>□音程や息をたくさん吸うところなど、前時を振り返り、気を付けながら歌うよう声掛けをする。</p> <p>□ヒントカード「歌詞」「旋律」「強弱」「音の重なり」をホワイトボードに掲示する。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○話し合いの話型の提示 話し合いの話型「友達の考えを受け止めよう」、「考えをつけたして広げよう」を示す。</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○交流の目的と視点の明確化 「自分や友達が考えたことを、合唱に生かすため」という目的と、「曲の特徴に沿った考えか」という視点を与える。 ※焦点化</p> </div> <p>☆旋律、強弱、フレーズ、音の重なり、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、歌詞の内容や曲想などを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。(発言内容、ワークシート)</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○活用場面の設定 話し合っただけの児童の考えを、合唱の表現に生かすことで、自分の歌唱表現の深まりや広がりを実感させる。</p> </div>
終末	<p>6. 本時の学習を振り返る。</p>	<p>□次の授業で気を付けたい歌い方の工夫を楽譜とワークシートに記入させる。</p>

【板書計画】



【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

話し合いの話型の提示

曲の特徴から、どのように歌いたいかを考えた内容をペアで共有する際には、話し合いの話型「友達の考えを受け止めよう」、「考えをつけたして広げよう」を示し、肯定的な受け止めをした後に、会話が広がるような交流活動を促す。

(2) 「学び合う」ための手立て

交流の目的と視点の明確化

自分の考えた表現の工夫について交流させる際には、「自分や友達が考えた表現の工夫を、合唱に生かすため」という目的と、「自分の考えと同じか、ちがうか」、「曲の特徴に沿った考えか」という視点を与える。

これらの目的と視点を児童が明確にもちながら交流活動をすることで、表現の工夫についての自身の考えをより深めたり、広げたりできるようにする。

活用場面の設定

話し合いを通して見出した表現の工夫を意識しながら、実際に歌う場面を設定する。友達との対話を通して、自分たちの歌唱表現が高まったということを実感させていく。